

「安心・安全」サポート隊を求む



去る7月9日、小学校部会が開催されました。この日の協議内容は、「安心・安全の取組」についてでした。

4月以降、全道的にみても不審者の出没が後を絶たない状況があります。道警への届け出も昨年と比べて増加し、中でも小学生や若い女性を狙った声掛け事案が最も多くなっています。この状況は、決して和寒町だけが蚊帳の外というわけでは

ありません。いつ和寒町にそういう事件が発生するかわかりません。事件になってからでは遅いのです。”子どもの生命を守る”早めの対策ということで話し合われました。

結論から言うと、

登下校時の見守りボランティアの要請と「子ども110番の家」ステッカーの取組に関する協力要請をすることとしました。

学校では、非常災害時対策ということで「集団下校班」を編成し、年数回集団下校訓練を実施しています。集団登下校は、通学の安全を確保するための有効な方法です。反面、大事故にあう危険もありますが、通学路の道路事情および交通事情を具体的に検討したうえで訓練や実施を判断しています。しかし、それだけでは万全ではありません。

そこで、子どもたちに何かあったときの対処法も指導しています。子どものための防犯フレーズ「いかのおすし」(いか=知らない人についていかない、の=他人の車にのらない、お=おお声を出す、す=すぐ逃げる、し=し何かあったらすぐしらせる)は、教育現場や警察を通じてこの10年くらいで普及しています。また、防犯ベルを持たせるなどの対策も講じています。

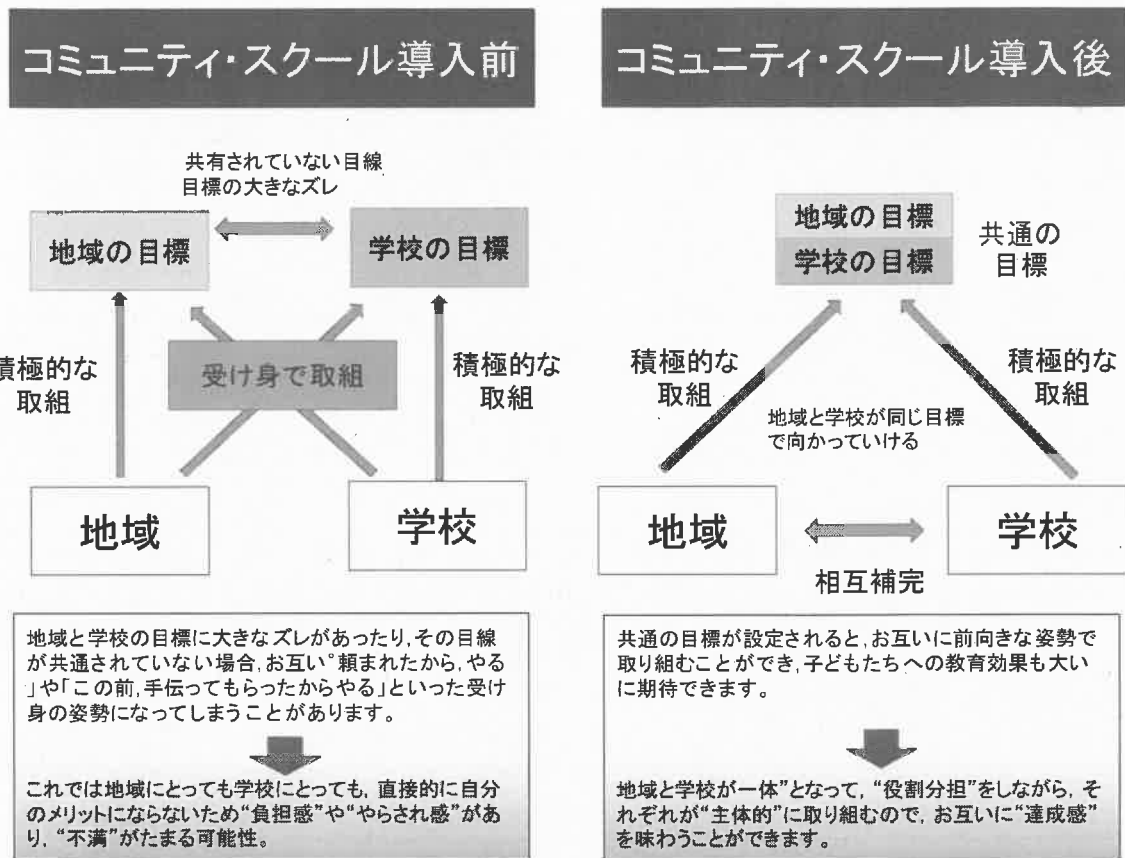
さらに、複数の目を通して子どもの生命を守ろうということで、広く地域の方に協力要請をすることになりました。「子ども110番」のステッカーを玄関先に付けたり、あるいは犬の散歩時、子どもの登校時の見送りやベストを着けての見守りを通して子どもの見守りに携わっていきます。

子どもの命を守るためには、「学校・家庭・地域が一体となる」ことが大切です。この活動を通して、地域での防犯意識や犯罪抑止力が高まり、ひいては子どもの命を守ることができることを願っています。

尚、協力に関する問い合わせは、地域学校協働本部（事務局 教育委員会内社会教育係 Tel 32-2477）までよろしくお願いたします。

コミュニティ・スクールあれこれ

今回は、コミュニティ・スクールを導入する前とその後を比較してみました。共通の目標があることによって、地域と学校の取組に違いがあるようです。共通の目標に向かって取り組むためには、役割分担が必要です。地域として、学校として、家庭としてそれぞれの役割を果たしていくことによって目標が達成され、達成感を味わうことができます。



ところで、学校運営協議会ではどのようなことを具体的に話し合うのでしょうか。一番大事なことは、学校運営に関する「基本的な方針の承認」を行い、「学校や教育委員会への意見の申出」を行う権限が法律上定められていることです。法律云々と言うと、とても堅い感じになってしましますが、要は地域とともにある学校をどう創っていくか話し合う場なのです。ですから、その会議体の機能を生かして、「学校評価」や「学校支援活動」についても協議が行われ子どもの成長のための支援につなげていきます。また、学校や地域の課題解決に向けた協議や熟議が盛んに行われています。



【熟議とは・・・】

関係者がみな当事者意識を持ち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議(熟慮と議論)」を重ねることで。